

令和六年度鹿屋体育大学入学式学長告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

また、本日まで、ご子息、ご息女を温かく見守り、ご支援を惜しまれなかった、保護者の方々をはじめ、関係各位の皆様方に心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、本日より、鹿屋体育大学の学生として、スポーツや武道に関する学びをスタートするわけですが、特に学部生の皆さんには、先日のオリエンテーションで触れた、「文武不岐」という言葉を改めて贈りたいと思います。

今日、スポーツや武道への関わり方は、「する」「みる」「ささえる」の3つ言葉によつて代表されますが、体育学部新入生の皆さんの心の中には、学生アスリートとして、練習や稽古、すなわち「スポーツや武道を実践する」ということが、大きなウエイトを占めていると思います。

しかし、本学の学生として求められるのは、「する」というだけではなく、「学ぶ」ということを合わせ持つ姿勢です。単に「する」というだけでは、スポーツや武道の本質に迫ることはできません。つまり、スポーツや武道を実践する行為そのものは、身体を動かすことが基本であり、それは身体的および生理的現象として捉えることができます。そして、実際の動きを通して生じるパフォーマンスの良し悪しは、やる気、不安、緊張といった、心の有りようにも左右される心理的現象として解釈することができます。

また、スポーツや武道は、人間独自の営みとしての長い歴史を持ち、文化的、社会的側面も持ち合わせています。すなわち、スポーツや武道は、多様な側面をもつ、人間の独自の極めて高度な営みであり、それらの本質を理解するためには、実践を通しての学びだけではなく、複数の学問領域を、横断的、複眼的視野を持つて学ぶ必要があります。一方で、実践を伴わない理論のみの学びでは、運動技術の新たな修得やパフォーマンスの向上は望めないことも明らかです。つまり、「文」に相当する理論的学びと「武」に相当する練習や稽古を通しての実践は、分けて考えることができない、いわゆる不岐の関係にあるといえるわけです。

したがって、本学での学びを開始するにあたっては、まずは皆さん自身の意識の中に常に文と武の両者を共存させ、それらを互いに活かすという姿勢を持つていただきたい。そして、その姿勢を日々真摯に取り続けることで、必ずやスポーツや武道を実践する能力と理解する能力を相乗的に高めることができ、本学が育成をめざす、活気ある(Active)独創的な(Creative)精英(Elites):A.C.E. Kanoya にふさわしい、資質をもった人材としての成長を遂げることが可能になるといえます。

皆さんは、スポーツや武道の実践と学びを通して本学で叶えたい夢を胸に秘め、今、この場に臨んでいることと思います。皆さんが夢の実現に向け歩む道は、決して平坦なものではなく、日々努力する過程において、様々な身体的、心理的な課題に直面し、試行錯誤を繰り返しながら、課題に立ち向かうことになるでしょう。

しかし、そのような課題と向き合う日々は、皆さんにとって、課題が生じる背景を論理的に推理する能力、課題を解決する道筋を探索する能力、そして実践を通して課題解決の手段を具体化する能力を磨く機会になるはずです。

是非、皆さん一人一人が自身を律する規範として文武不岐を掲げ、本学での新たな挑戦をスタートしてください。

ここ大隅の地は、皆さんがこれからの大学生活を送るうえで、基盤となる場所です。鹿屋市をはじめ大隅の皆様方は、学生諸君を温かく迎え、本学の教育および研究をご支援してください。どうか自然豊かな大隅の地で、鹿屋市を中心とする地域の皆様とのふれあいを通し、充実した学生生活を過ごしてください。

最後になりましたが、本日ここに、ご来賓の方々と並びに保護者の皆様方のご列席を賜りましたことに厚く御礼申し上げ、新入生の皆さんへの告辞とします。

令和六年四月五日

国立大学法人 鹿屋体育大学学長

金久博昭